

『mojia』を読んで

泉佐野市立日根野小学校 四年 室谷 葵都

私は『mojia』という本を読みました。この本は毛深くて「もじゃ」と言うあだ名を付けられからかわれそれ以降自分の肌をだれにも見せない女の子、理沙が、友達や家族のおかげで自分の体を受け入れて自分の事を好きになっていくお話です。

私が不思議に思ったことは、どうして毛深いことを家でも必死にかくして、家族にまで見せなかったのかということ。友だちに言うのははさくなくても、家族にならずかしくないし、お母さんに言った方が毛が生えないようにいろいろ考えてくれてなやみもなくなるかなと思っただけです。

すぎて悪い所と一緒に良い所までなくしてしまう人もいます。私も友達をうらやましく思ったり、自分に自信が持てない時もあるけれど、自分の事に自信を持って自分をいつでも好きでいて、これからも新しい事にどんどんチャレンジしていきたいと思えます。

好きなところは、自分のほだをタイツや長そででかく

していた理沙が、友達もみんな身体のかなやみを持つていることを知り、友達にはげまされたりして、自分の意志でタイツを脱いで素足で海に入ったところ。だれかに無理矢理脱がされたのではなく、自分で決めた勇氣に感動しました。海に足をつけた理沙はきっと、くもっていた心がスカッと晴れ、初めて友達と一緒に自分の素肌で風を感じる事ができて、気持ち良かったと思います。

わたしがこの本を読んでわかった事は、

「人にはそれぞれ個性があつて悪い所が二つも無く、

何もかもがかんべきな人などいない」

「二人が唯一無二な存在」

という事です。人とちがう事になやみ、人の目を意識し

『mojia』

著 吉田 桃子
講談社

